

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102186		
法人名	有限会社 エ・アロウ 福富		
事業所名	グループホーム エ・アロウ 福富		
所在地	岐阜市福富迎田72番地 (電話) 058-229-0238		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月13日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 30 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人 常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.2 人		

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	8,400~ 円	
敷 金	有 (105,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり			1,470 円

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 30 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 78 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市郊外の新興住宅地や昔からの農家が点在し、幹線道路より少し入って目の前は田園が広がり、静かで安らぎにふさわしい環境にある。元社員寮を改装し、天井や廊下の部分は木材が多く使われぬくもりの感じられる建物である。2つの居室毎に共同スペース(トイレ・洗面所・洗濯場)があり、また、テレビやオルガンが置かれ、食堂にはいす式の炬燵があり、温かな雰囲気のあるホームである。経営者はこのホームを含め2つのグループホームを運営している。家族会の応援を受けて、利用者・家族・職員が一体となり、地域の力を活用し、一人ひとりの人格や尊厳を大切にしながら、ケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の服薬に対して、利用者ごとに1週間分の薬が鍵付きの戸棚に保管され、1回に服用する薬が分かりやすくセットされて改善されている。ヒヤリハットと事故報告はノートが作成されていたが、記録と対策が検討中であり、継続の改善課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長と管理者及び一部の職員で取り組んでいた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や自治会長・民生委員・家族会の代表者の出席で、グループホームの事業・活動・行事や内容を報告し、助言をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が意見や意向を出し、行事や運営に大きく反映され、職員育成にも良い影響を与えている。ホームの大切な応援者となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入している。地域で行われる春の清掃作業や夏祭りに利用者と共に参加し、交流や連携を取りながら地域の一員としての地域密着型ホームをめざしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「1. 尽くすー奉仕の心」「2. 心愛ー受けとめる心の愛」「3. 協調ー同一の立場で暮らす姿勢」「4. 精進ー各自の研鑽・協力」「5. 共生ー全ての人と生きる喜びを感じる感性を養う。」と、理念がわかりやすい言葉でホーム内に掲げてある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1度の職員会議で、理念が日々のケアの中で実践されているか、確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入は、開設当初からの希望であった。なかなか受け入れてもらえなかったが、ホームの粘り強い努力で実現できた。春の清掃作業や夏祭りに利用者と共に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後に改善課題のヒヤリハットのノートを作成するなど、前向きな取り組み姿勢が伺えるが、ケアの中に活かされていない。	○	さらに、ヒヤリハット記録の活用方法を工夫されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や自治会長、家族会の出席でホームの活動内容を報告し、助言をもらいサービスの向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は地域密着型ホームの運営をめざし、市担当者に地域におけるホームの役割を相談するなど、前向きに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が2ヶ月に1回開催され、その時に利用者の暮らしぶりを報告している。その他に、面会時に家族と話す機会を作っている。面会に来られない家族には、月1回、金銭出納と利用者の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や意向を出してもらっている。家族会がホームの行事、夏祭り、菊人形展を見に岐阜公園への外出等、日常生活支援の力強い応援者であり、ホームの運営の大きな力となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制をとり、馴染みを大切にしている。担当以外でもフォローしてもらえるように、1階と2階に分かれているユニットの交流を常に図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は、日々のケアの中で気がついたときに、助言、指導を繰り返し、実践を通して職員の育成に努めている。	○	職員の経験や力量に応じた計画的な研修の参加、学習に取り組まれない。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、研修会や情報交換の場には積極的に足を運んでいる。	○	さらには職員レベルを高めるために、地域の他のグループホームと交流し、相互間の活動・支援方法などを通じて自己研鑽にも結び付く事を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約時に職員が利用者宅を訪問して顔なじみとなり、サービスを開始している。また家族会を通じての見学もあった。本人が精神的に安心できる様に、家族が毎週面会に来て、交換日記を作り、幼い孫の絵文字や嫁の励ましの文等を交わし、なじめるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームのすぐ横の畑で職員が野菜を作り、利用者と共に収穫を喜んだり、チューリップを植え、春にチューリップ祭りを楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者会議を月1回開き、自由に思いや意向を発言出来るようにしている。以前は晩酌をする人があった。墓参りに出掛ける利用者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人から意向を引き出し、職員会議で話し合い、介護計画を作成している。その後、家族に了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当を決めプランを見直し、見直した仮の介護計画を実践し、修正が必要な所を職員間で十分話し合った上で介護計画の更新を行っている。	○	丁寧な介護計画の見直しが行われているが、6ヶ月に1度で行う計画の更新が前回と同じ内容になっている。新たな計画内容に記録として残されたい。家族に周知するためにも必要と思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や自宅までの外出支援をしている。墓参りに月1回の外出を介助している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切にし、入所以前のかかりつけ医師に診察を受けている。利用者は2週間に1度の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	以前、死の4時間前まで、ケアしたケースがあった。今後、ターミナルも引き受けたいとの意向はあるが、医療連携が取れないため、現状では難しく、検討中である。	○	医療連携の必要性を十分理解しているので、ホームの現状に合わせた対応を早急に検討されたい。対応方針は、本人や家族に周知し、必要なマニュアル、様式等の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	家族便りや廊下の写真の掲示には、必ず家族の同意を得ている。各部屋にはのれんを使用してプライバシーを守ったり、言葉の上でも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間の目安はあるが、好きな時に起床したり、食事も利用者にペースに合わせて支援している。難聴の利用者には大きな呼び鈴が用意されていた。また、リハビリを目的に1日の目標歩数を表にし、達成を共に喜び合うなどの支援がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望する食事を聞いたり、一緒に調理をすることで食を楽しんでいる。おやつも一緒に手作りしている。職員も一緒に食事をとりながら、明るい話題を提供し、きめ細やかな介護に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人には無理強いすることなく、効果的なコミュニケーションを図ることで楽しんで入ってもらっている。大きな総檜風呂で、ゆったりと入浴が出来、また、目隠し用に竹で作った塀が和の雰囲気を出し、心の安らぎを得られるように工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室で観葉植物を育てている人や野菜の収穫を楽しみにしている人も多い。月に何度か喫茶店へ出かけている。干し柿が、数名の居室前にぶら下げてあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物（週に3回交代）・喫茶店・散歩と出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、徘徊のある利用者には、職員がついて行くようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、緊急連絡網やマニュアル等の取り決めができています。また、1週間分の食料が備蓄されている。地域で開催される避難訓練にも参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者のその日その日の健康状態と食事摂取量を意識し、毎食の摂取量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幼稚な飾りつけはなく、季節の花やクリスマスツリーなど季節感があり、リビングにはイス用の炬燵が用意され、ゆったりとくつろげる空間となっている。廊下の天上には、手作りの金魚のモビールが吊り下げてあり、和の雰囲気を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	難聴の利用者の居室には大きな呼び鈴や、コミュニケーション用に画用紙やペンが用意されている。観葉植物、蒲団や整理ダンスが持ち込まれ、ダンスは自分で出し入れができるように工夫してある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。